

大阪TOWNタウン

堺の職人創作仙台東すずめ踊り

400年ぶり里帰り

堺市

近世初年同市の堺地区で発足の。家紋が「竹にすずめ」のりによって生み出された仙台東の伝統芸能「仙台東すずめ踊り」。踊の郷土愛に火を付けそう。行事で披露され活躍を続けている。

期に堺の四百年の時を越えた里帰りの行政や市民団体の視点が言われている。現在仙台東には約四十の祭連が保存。さまざまな祭りや行事で披露され活躍を続けている。

の代表が「鳴組」の代表・楠本篤子さん(50)と協力して同年十月

昨年、集団祭連「堺『鳴組』」を結成



400年ぶりの里帰りを実現させた「堺『鳴組』」のメンバー

定期的に練習、アレンジ

「堺祭り」のパレード参加にき着いた。バトンを受け継いだ楠本さんは、同団体の中からお志を募り、すずめ踊りのための祭連「堺『鳴組』」を結成。最初は、扇子の用意などすべてが手探りで練習もままならなかったが、現在は月一回小学校の体育館などで定期的に練習を行い、踊りにアレンジを加えながら各地のイベントに参加している。

楠本さんが住む市小学校区は中世の環濠都市堺が興隆を迎えた地域でもあり一堺の石工が作ったというすずめ踊りをここでやるのは歴史的な意義を感じる」と述べ、藤田さんは「堺で祭連が増えて伝統芸能として根付き、仙台との交流の懸け橋にもなれば嬉しい」と思いを語っていた。

(豊野由樹記者)